

分布

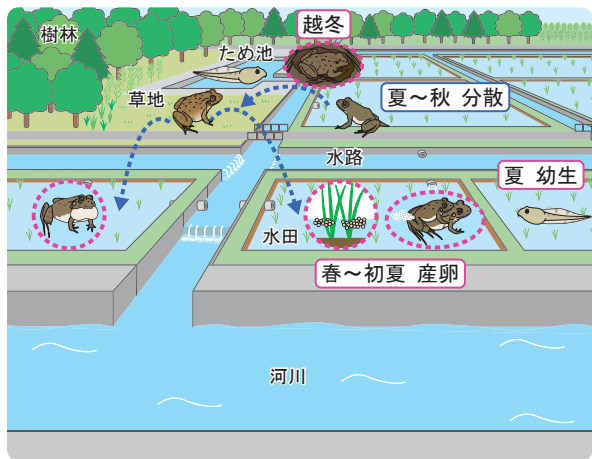
本州中部(神奈川県)以西、四国、九州、先島諸島を除く南西諸島に分布します。近年では関東地方でも確認され、人為的に分布を拡大しています。



メモ 暗灰色から灰褐色で、背中は小さな顆粒状のイボイボで覆われています。ツチガエルによく似ているので、識別の際には注意が必要です。高温や乾燥に強い耐性を持っています。

生態

---> : 本来の移動経路 ○ : 生息環境



主な産卵環境と生息環境

←→ : 主な生息環境

樹林・草地	ため池	水田	水路	河川	海
	産卵	産卵			

生活史

平地から山地まで広く生息しています。初夏から盛夏にかけて水田や水深の浅いため池で産卵を行い、卵は水草やイネの茎に付着します。幼生(オタマジャクシ)は夏に幼体(子ガエル)となり、上陸後は水辺の草地などに分散します。水辺の土の中で越冬します。

写真

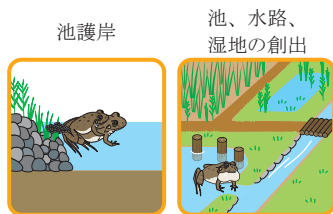


比較的小さな餌を好み、昆虫やクモなどを食べます。水田のまわりに生息するヘビ類や大きなカエル類の餌にもなっています。

配慮対策

■ 生息環境の確保 水草のある水辺環境の創出

◆ 保全池・ビオトープの対象工法



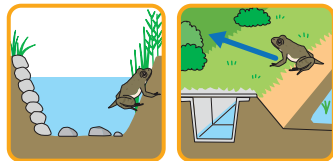
- 【池護岸】
- ①自然石系 p.85
- ②複合系 p.86 (捨石等による緩傾斜護岸)
- ③かご系 p.87
- ④木系 p.88
- ⑤二次製品系 p.89
- 【池、水路、湿地の創出】
- ⑥保全池 p.90
- ⑧耕作放棄地等のビオトープ化 p.92

【配慮ポイント】

・水草やイネのある環境で産卵するため、護岸の植生や水草の生育、浅い水深に配慮する工夫が必要です。

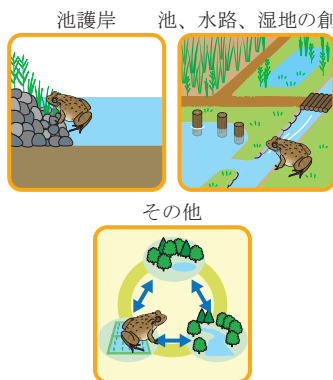
■ 移動経路の確保 水域と陸域の連続性の確保

◆ 環境配慮型水路の対象工法



- 【水路護岸】
- ⑤土水路 p.73
- ⑥かご系 p.74
- ⑦木系 p.75
- ⑧自然石系 p.76
- ⑨二次製品系 p.77
- 【その他】
- ⑩蓋掛け p.79

◆ 保全池・ビオトープの対象工法



- 【池護岸】
- ①自然石系 p.85
- ②複合系 p.86 (捨石等による緩傾斜護岸)
- ③かご系 p.87
- ④木系 p.88
- ⑤二次製品系 p.89
- 【池、水路、湿地の創出】
- ⑦承水路 p.91
- 【その他】
- ⑨表土利用による植生回復 p.93

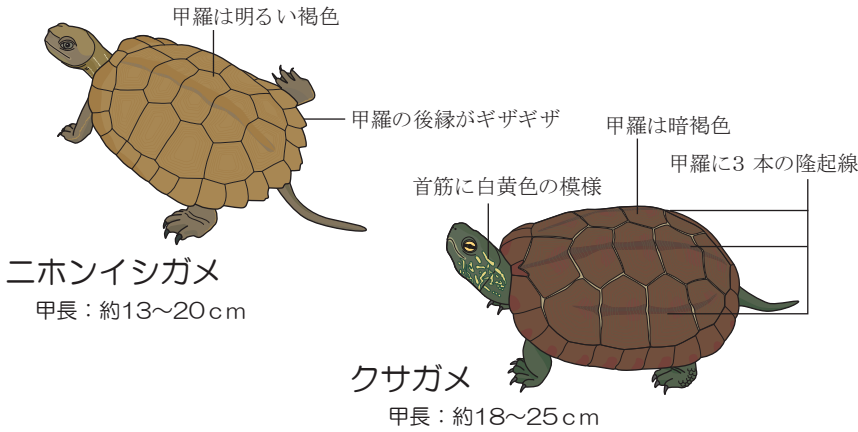
【配慮ポイント】

・水田やため池と草地や樹林を往来するため、移動経路となる水域と陸域の連続性を確保する工夫が必要です。

爬虫類 カメ類

ニホンイシガメ *Mauremys japonica*
クサガメ *Chinemys reevesii*

環境省レッドリスト: 情報不足
環境省レッドリスト: カテゴリーなし



ニホンイシガメ
甲長: 約13~20cm

クサガメ
甲長: 約18~25cm

メモ カメ類は、ほぼ全身が甲で覆われており、陸上では動作が鈍いものの、水中では敏捷に遊泳します。

分布

ニホンイシガメ、クサガメは両種とも北海道と琉球列島を除く日本各地に広く分布します。近年、北海道や奄美大島にも移入されています。



生態



主な産卵環境と生息環境

樹林・草地	ため池	水田	水路	河川	海
	産卵	産卵	産卵	産卵	

生活史

平野から丘陵地に生息します。初夏から盛夏にかけて水田やため池、水路、河川の近くの土手に穴を掘って産卵します。ニホンイシガメの幼体(子ガメ)は秋に地上に現れますが、クサガメの幼体は通常は翌年の春まで産卵巣の中にとどまります。地上に現れた幼体は水路や湿った草地に分散します。水中や水辺の土の中で越冬します。

写真



ニホンイシガメ
河川改修や堰堤などの工事、圃場整備などの影響で生息環境が失われ、姿をみかける機会が減ってきました。



クサガメ(幼体)
春に地上に出てきたばかりのクサガメの幼体。甲羅の大きさは10円玉と同じくらいです。

配慮対策

生息環境の確保 水草のある水辺環境の創出

◆環境配慮型水路の対象工法

水路護岸



【水路護岸】

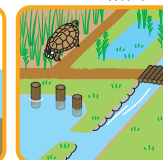
- ⑤土水路 p.73
- ⑥かご系 p.74
- ⑦木系 p.75
- ⑧自然石系 p.76
- ⑨二次製品系 p.77

◆保全池・ビオトープの対象工法

池護岸



池、水路、
湿地の創出



【池護岸】

- ①自然石系 p.85
- ②複合系 p.86
- (捨石等による緩傾斜護岸)
- ③かご系 p.87
- ④木系 p.88
- ⑤二次製品系 p.89

【池、水路、湿地の創出】

- ⑥保全池 p.90
- ⑧耕作放棄地等の
ビオトープ化 p.92

【配慮ポイント】

・水辺の土手に穴を掘って産卵するため、表土保全の目的で護岸の植生に配慮する工夫が必要です。

移動経路の確保

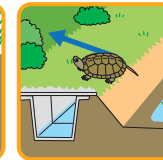
水域と陸域の連続性の確保

◆環境配慮型水路の対象工法

水路護岸



その他



【水路護岸】

- ⑤土水路 p.73
- ⑨二次製品系 p.77

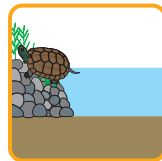
※生息環境の確保と同様

【その他】

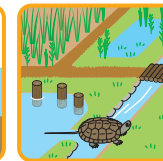
- ①蓋掛け p.79

◆保全池・ビオトープの対象工法

池護岸



池、水路、
湿地の創出



【池護岸】

- ①自然石系 p.85
- ⑤二次製品系 p.89

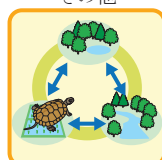
※生息環境の確保と同様

【池、水路、湿地の創出】

- ⑦承水路 p.91

【その他】

- ⑨表土利用による
植生回復 p.93



【配慮ポイント】

・水田や水路などと草地や樹林を往来するため、移動経路となる水域と陸域の連続性を確保する工夫が必要です。

止水性トンボ類

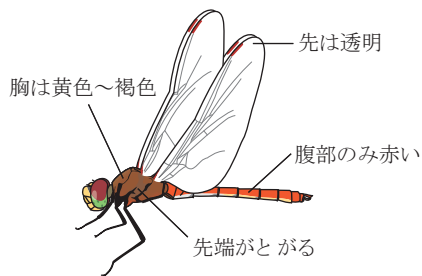
アキアカネ *Sympetrum frequens*

ギンヤンマ *Anax parthenope julius*

環境省レッドリスト：カテゴリーなし

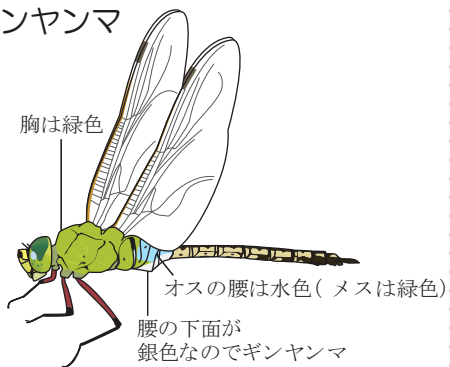
環境省レッドリスト：カテゴリーなし

アキアカネ



体長：約3.5～4.5cm

ギンヤンマ

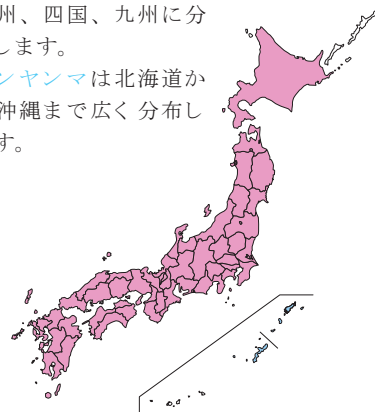


体長：約7.5～8cm

分布

アキアカネは北海道、本州、四国、九州に分布します。

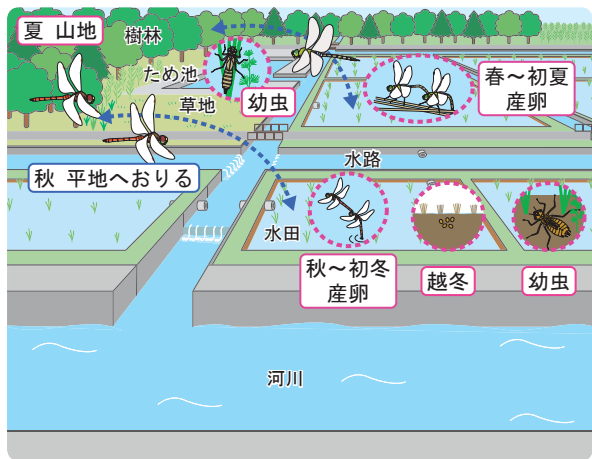
ギンヤンマは北海道から沖縄まで広く分布します。



メモ 水田やため池など水の流れない場所や緩い場所に飛来するトンボ類です。

生態

---> : 本来の移動経路 ○ : 生息環境



主な産卵環境と生息環境

←→ : 主な生息環境

樹林・草地	ため池	水田	水路	河川	海
	産卵	産卵			

生活史

幼虫(ヤゴ)は、ギンヤンマのようにため池の水草などにつかまって生活するものや、アキアカネのように水田の底泥で卵のまま越冬し、春に水が入ると孵化するものがあります。成虫は周辺の草地や樹林などで生活します。

写真



アキアカネ
「夕焼け小焼けの赤とんぼ」と童謡にも歌われている、最も身近な赤とんぼです。

ギンヤンマ

飛翔能力が高く、水域上空を高速で飛んだかと思えば、すぐにホバリングもするなど巧みに飛翔します。



配慮対策

■ 生息環境の確保 水草、底泥の創出

◆ 保全池・ビオトープの対象工法

池護岸



【池護岸】

- ① 自然石系 p.85
- ② 複合系 p.86
(捨石等による緩傾斜護岸)
- ③ かご系 p.87
- ④ 木系 p.88
- ⑤ 二次製品系 p.89

池、水路、 湿地の創出



【池、水路、湿地の創出】

- ⑥ 保全池 p.90
- ⑦ 承水路 p.91
- ⑧ 耕作放棄地等の
ビオトープ化 p.92

【配慮ポイント】

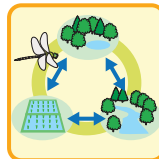
・産卵および幼虫の生活場所となる水草と底泥のある止水環境に配慮する工夫が必要です。

■ 移動経路の確保

ビオトープネットワークの創出

◆ 保全池・ビオトープの対象工法

その他



【その他】

- ⑩ 植栽 p.94

【配慮ポイント】

・成虫は樹林や草地などで生活するため、離れた水域の間を緑地を経由して移動できるように植栽を行います。